

第11回北斗市地域公共交通活性化協議会における意見について

○意見

- ・MaaS等勉強会について、対象者や参加者、講師はどのようにお考えでしょうか。

■事務局コメント

- ・当協議会委員のほか地域の公共交通関係者を参加者として想定していますが、講師や開催時期、内容等の詳細は、今後調整します。

○意見

- ・「1. 地域公共交通ガイドマップ作成 (2) 計画の位置付け」における「施策⑧ わかりやすいツール作成」に関して、情報弱者に対しても親切なツール作成を希望する。

■事務局コメント

- ・今年度作成する地域公共交通ガイドマップは、情報弱者にも配慮し、紙のマップを全戸配布する予定です。ただし、時刻表の改正等、最新情報にオンラインでアクセスできるよう工夫します。

○意見

- ・(バリアフリー要件適用除外認定について) 現状の実績からは大型車両での運行は難しいのでは？ 小型(ハイエース等)を今後も使用するのであれば、認定を受けないと厳しい。

■事務局コメント

- ・函館運輸支局とも相談のうえ、適切に対応します。

○意見

- ・乗客数・回数券販売が少なく、今後の利用促進に期待する。
- ・巡回ワゴンの今後の利用促進策をどのようにお考えでしょうか。
- ・運行会社としては上磯線の廃止。茂辺地当別線、大野地区の増便。地域特性として、家族等の送迎が根付いている為、上磯線は乗車率が極端に少ないのでは？
- ・現時点での乗客数を見ると、上磯線が少ない利用率となっている。
ただ、あくまでも昨年10月から始まったばかりである事やコロナ禍である状況を加味すれば、少ないと言うには早計であろう。
益々進む高齢化に伴い、免許返納後の交通の選択肢の一つとして有用で、継続すべき施策であり、利用状況については長いスパンでの判断が求められるものと理解する。
- ・もっと活用していただくために、町会会長及び自治会長会議のみならず、町会回りを再度行う事や、茂辺地線が多い事からもっと茂辺地線を充実(本数を増やす)するなどいかがでしょうか。
- ・乗客数が伸びていないのが気になります。
- ・運行開始からまもなく、乗客数が低いことはやむを得ないが、たとえば、モニターを指定して利用を促したり、乗客へのアンケートをとるなどして、結果から運行ルート・頻度の見直し可否等を検討してよいのかもしれない。

- ・同じ路線（特に茂辺地・石別線）でも月ごとに乗客数にかなりばらつきがあったが、その理由が知りたい。また、今後のため、利用者側に対してアンケート調査等を実施して、利用のための課題などを明らかにする必要があるのではないか。
- ・10月～3月の各期間の巡回ワゴンの運行状況実績を見ると11月期、1月期、3月期の半数月が1日当たりの利用者数はそれぞれ0.7人、0.6人、0.7人と1人を下回り、残った10月は1.6人、12月が1.5人、2月が1.3人と6か月合計でも平均1.1人の利用実績では巡回ワゴン車の運行事業の存在に対して疑問を持つ人が多くいるだろうと考えます。実際私あてに電話でこの事業に対しての意見を求められました。
- ・巡回ワゴン運行事業を企画した行政側と利用する住民の間での意見の相違が浮き彫りになったのではないだろうか。いわゆる行政サービスと住民側のニーズが一致できていない様に思われる。運行曜日、運行先、終点の件、運行時間等を考慮して端的に利用しづらいという感が否めないのではないか。
私は民間事業の会社に勤務して居りましたが、民間に需要のないものは成立しない事になって居ります。ただし官の事業の中には福祉という重要な課題を担う事が運命づけられている事で気の毒な側面があるのですが本事業が北斗市でも成立するかを再考する必要性を感じますが……
6ヶ月の期間で結論を出す事が拙速であるかは判断できませんが買物、医療難民と呼ばれる方々の別な対応を含めて検討を有するのでは。
- ・委員として一度も利用していないので本当に申し訳ありません。具体的な事はわかりませんが運行状況を見ますと、茂辺地、石別、大野地区の利用者にとっては大事である事業である事がわかりました。ますますふえるであろう交通難民の為にも、いままで利用した方々の声が大事だと思いますので是非一度話合いの機会を作ってください。その為にも私も利用し委員としての役を果たしたいと思います。
- ・参考資料1の運行状況を見ると、上磯線の利用状況が芳しくなく、現状、美容院や行きつけの病院などには往復で利用しづらい運行時間設定なのではないか？とも感じられます。
- ・上記のとおり、上磯線以外については午後便を提案する。
- ・コロナ禍のため会議を開いて現状、将来についての懸念について話し合いが持たれなかった事は残念です。

■事務局コメント

- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う緊急事態宣言（R3.8.27～R3.9.30）が明けてすぐの運行開始となったことや、まん延防止等重点措置期間（R4.1.27～R4.3.21）があったこと等、新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなかったものと考えられます。
- ・月ごとに乗客数の増減が生じた原因については、通院日との関係が推測されますが、詳細は不明です。
- ・運行事業者によれば、雪道での運転を避けるため冬季間利用したいとの利用者の声があった一方、春以降は農作業のため利用しないとの声もあり、引き続き利用状況を注視します。
- ・今後、地域にお住まいの方の声を直接伺うため、巡回ワゴン沿線地域の免許返納高齢者世帯や高齢者のみ世帯等を個別訪問し、ヒアリング調査を実施するほか、委員から意見のあったモニター乗車や地域の方へのアンケート調査も実施し、地域にお住まいの方の声をきめ細かくうかがいます。
- ・これらの結果を踏まえ、今後の運行時間、運行回数等、協議会で議論を経て見直しに反映していきます。